

## 飯能第一小学校施設整備の在り方について

### 1 現状

- ・ 飯能第一小学校は、校舎北棟が昭和41年3月に建築されて以来、全ての建築物が50年以上を経過しており、施設及び設備の老朽化が著しい状況です。
- ・ 外壁全体が著しく劣化、亀裂や浮きが多数発生しています。
- ・ 特に校内トイレに漏水・汚水漏れが発生し、使用禁止箇所が多くあるなど、衛生面の問題も生じています。

### 2 課題

- ・ 建築から50年以上を経過し、老朽化が著しい飯能第一小学校において、子どもたちの学習環境を確保していくためには、早期に建替え等に向けた取組を進めていく必要があります。
- ・ 飯能第一小学校は、昭和50年に富士見小学校と分離後、児童数は昭和56年の1,580人を最大に減少し続け、令和3年には605人となっています。施設の建替えにあわせた学校規模の見直しとともに、公共施設として規模の最適化、老朽化が進む又は未耐震の公共施設との複合化など、公共施設等総合管理計画に基づく検討もあわせて行っていく必要がある中で、学区内にある飯能中央地区行政センター、飯能第一小学校の空きスペース等を利用している放課後児童クラブについては早急な検討が必要な課題となっています。
- ・ 飯能第一小学校の建替え等に向けては、学校として高機能かつ多機能な学習環境、快適で豊かな施設環境を確保していくとともに、周辺の公共施設もあわせた今後の施設整備の在り方を検討していく必要があります。

### 3 飯能第一小学校施設整備の在り方の検討着手

- ・ 本市では、関係する部署と連携し、施設整備の在り方を検討するため、飯能第一小学校施設整備検討部会を設置し、検討を開始しました。
- ・ 検討にあたっては、4「学校施設整備の基本方針」を踏まえ、適切かつ快適な学習環境を確保します。また、学区内にある飯能中央地区行政センター、同一敷地内や余裕教室を活用した放課後児童クラブについても一緒に考え、施設の総合的かつ効率的な整備の在り方について検討していきます。
- ・ 施設の整備にあたっては、市民との対話を重視し、取り組んでいきます。

#### 4 学校施設整備の基本方針（H31.3 文部科学省 小学校施設整備指針より）

学校施設整備を検討していくにあたり、以下の国の学校施設整備の基本方針を踏まえ、施設環境を確保します。

##### (1) 高機能かつ多機能で変化に対応し得る弾力的な施設環境の整備

教育内容・教育方法等の変化などに対応して、多様な学習内容・学習形態やICTを日常的に活用できる高機能かつ多機能な学習環境を確保し、更に、今後の学校教育の進展や、情報技術の進展等に長期にわたり対応することのできるような柔軟な計画とすることが重要です。

##### (2) 健康的かつ安全で豊かな施設環境の確保

児童等の学習及び生活の場として、また、教職員の働く場として、日照、採光、通風等に配慮した良好な環境を確保するとともに、障害のある児童にも配慮しつつ、十分な防災性、防犯性など安全性を備えた安心感のある施設環境を形成することが重要です。

また、児童がゆとりと潤いをもって学校生活を送ることができ、他者との関わりの中で豊かな人間性を育成することができるよう、生活の場として快適な居場所を計画することが重要です。

さらに、それぞれの地域の自然や文化性を生かした快適で豊かな施設環境を確保するとともに、環境負荷の低減や自然との共生等を考慮することが重要です。

##### (3) 地域の生涯学習やまちづくりの核としての施設の整備

地域住民にとって最も身近な公共施設として、まちづくりの核、生涯学習の場としての活用を一層積極的に推進するためにも、施設のバリアフリー対策を図りつつ、必要に応じ他の文教施設や児童福祉施設、老人福祉施設等との連携や、地域の避難所又は緊急避難場所としての役割を果たし、また景観や町並みの形成に貢献することのできる施設として整備することが重要です。